

平成29年度学校評価について

学校番号	6	学校名	滋賀県立大津高等学校
校長名	森 美 穂		

1 評価方法について

領 域	評 価 方 法 ・ (実施月)	
	自 己 評 価	学 校 関 係 者 評 価
1 学校経営	○ 12月に実施した保護者向けアンケートと生徒向けアンケートの結果を教員に示し、自己評価を行った。	○ 2月に実施した学校評議員の会で、自己評価の結果を学校評議員に示し、保護者向けアンケート結果、生徒向けアンケート結果を参考に、協議を行い、評価を決定した。
2 学習指導		
3 生徒指導		
4 進路指導		
5 特別活動等		
6 学校図書館		
7 保健・安全指導		
8 人権教育		
9 環境教育		
10 事務・管理		
11 その他学校の取組み		

2 学校評価の活用等について（課題の改善に向けた具体的な取組み等）

1 学校経営

P T A総会の後に学年懇談会を設定したり、ホームページを随時更新したりして、本校の教育活動や生徒の諸活動の成果を積極的に伝えることで、概ね生徒・保護者の理解を得られていると考えている。また、本校の家庭クラブの生徒が平野まちづくりフォーラムに参加するなど地域と連携した活動にも意欲的に取り組んでおり、地域からも一定評価をいただいていると思われる。しかしながら、アンケートには学校に対する保護者のさまざまな要望が散見されることから、今後も学校経営の改善に努め、会議やホームページ等を通じて生徒・保護者や地域に情報発信を行い、さらなる理解と連携を求めていく。

2 学習指導

今年度から「学びの変革」推進プロジェクトのモデル校に指定され、学習指導の先進的な取組をしている学校を訪問したり、公開授業を行ったりして、能動型学習を基盤とした授業改善の取組を進めている。しかし、生徒のアンケート等の結果を見る限り、授業に対する興味や理解が十分に深まっていないところがあり、特に家庭での学習習慣の確立がまだまだ十分でないと思われる。そのため、今後も授業改善や家庭学習を定着させる取組（学習時間調査、週末課題等）を一層推進していく。

3 生徒指導

概ね生徒は集団生活のルールを守って生活できているが、自己管理が不十分なところもあるため、今後も遅刻指導や頭髪指導を継続していく。生徒による主体的な生徒会活動が定着しており、学園祭等の満足度は高いが、生徒会執行部で活動する生徒を育成していくことが課題であるので、さらに生徒会係によるサポートを強化していく。いじめに係るアンケートを活用することで、いじめの早期発見・早期対応に努めており、今年度は多方面からの意見を踏まえて学校のいじめ防止基本方針の見直しを行った。今後も生徒課や生徒会によるいじめの未然防止等の取組（挨拶運動や啓発活動、アンケート等）をさらに進めていく。

4 進路指導

生徒対称の校外学習や進路説明会、保護者対象の進路説明会などを実施して情報提供に努めているが、保護者のアンケートで「進学に関する情報がもっとほしい」という要望があった。大学入試改革や近年の生徒の合格実績を踏まえ、進学に関するわかりやすい情報提供に一層努めていく。また、生徒の進路希望の実現に向けて関係分掌（教務課・進路課）が中心となって組織的・継続的な学習指導・進路指導体制の充実を図っていく。

5 特別活動等

例年通りHR活動、部活動などについては生徒・保護者ともに評価が高く、次年度も分掌と学年が連携して人権教育・道徳教育などの特別活動や総合的な学習の取組を継続していく。ただ、「HR活動や生徒会活動に自ら積極的に参加できていない」とアンケートで答えている生徒が多いため、さらに生徒の自主性を高めるような指導・支援を模索していく。

6 学校図書館

子どもたちの読書離れが見られる中で、読書習慣を定着させる指導が不十分であると感じている教員が多いため、自己評価は「C」であった。しかし、図書委員による読書週間の呼びかけや朝読書の取組、図書館を活用した探求的な授業の展開など読書習慣の確立に向けた活動を進めており、アンケート結果から生徒は読書の大切さを感じていることが分かることから、学校関係者による評価は「B」となった。今後も読書習慣のさらなる定着に向けて、朝読書などの取組を継続・充実していく。

7 保健指導

保健室が中心となって、けがや病気、悩みを抱えた生徒への対応を適切に行っており、定期的にカウンセリング委員会を開くなどして関係教員間の連携を図っている。また、スクールカウンセラーや外部の専門機関との連携も深まっており、特に個別の支援計画の作成を行うなど特別支援教育の体制が整ってきている。ただ、アンケートで「悩みや相談事があれば気軽に相談できる先生がいない」と答えている生徒も多いことから、教育相談体制の一層の充実を図っていく。

8 人権教育

本校独自の100分LHRでの人権教育の取組については、生徒・保護者・教員ともに評価は高く、生徒の人権意識の向上に寄与していると考えられる。今後も、社会や生徒の状況に合わせて、より効果的な指導のあり方を模索し、常に改善を図りながら道徳教育の視点もあわせて取り組んでいく。

9 環境教育

日常の生徒指導、清掃指導をとおして身近なところから環境教育を進めており、多くの生徒はしっかりと取り組んでいるが、環境問題に特化した学校行事が少ないと感じている教員も多く、アンケート結果から「生徒の環境に対する意識が高まった」と感じていない保護者も多い。今後は各教科の授業や特別活動において、さらに環境問題への意識が高まるような取組を進めていく。

10 事務・管理

施設・備品は老朽化しているものが多く、教員と事務職員が連携しながら修繕や更新を適宜行い、生徒に快適な学習環境を提供していくように努めているが、まだまだ改善が必要などところがある。また、安全衛生委員会や教職員研修をとおして、危機管理（個人情報等の管理等）について共通理解と安全意識の向上を図っており、今後も継続していく。

11 その他学校の取組み

普通科と家庭科学科の生徒同士が切磋琢磨しつつ、お互いに良い影響をおよぼしながら学校生活を送ることができている。生徒の自己評価が低いのは、質問の意味が分かりにくいようなので、次年度は質問の文言を検討していく。